

式モニターやタブレットなどを設置。地域情報の発信機能を取り入れたほか、相談ブースや応接室を多く備え、コンサルティングを充実させている。岡崎哲也支店長（54）は、「地域総合サービスグループの一員として、顧客の課題解決は当行最大のミッション。金



利生

広島・舟入町8-40 ☎231-2018

中国料理

桂林

広島・八丁堀6-6 ☎223-1515

リサーチでズバリ切り込む広島修道大学商学部の川原直毅教授が2月25日、中国経済産業局長から感謝状を授与された。

徹底した市場調査で中国5県の中小・小規模事業者の経営、地域発展に長年貢献。新技術や地域資源、農商工連携に精通し、売れる

は具体的なアドバイスを心掛けています」

美味しい港町

水産物取引プラットフォームを運営するウーオ（中区大手町）は1月からコーポレートアイデンティティ（CI）を刷新し、企業ビジョンに「すべての町を、美味しい港町に」と掲げた。

鳥取県出身の板倉一智社長は大手物流会社を経て、2016年に創業。地元の網代港の活気が失われていく様子に危機感を抱き、水産業を再生させたいとの思いから事業を立ち上げた。スパーなどのバイヤー向けに、全国の提携港の魚を簡単

実現させたい」

昨年10月には経済産業省のスタートアップ支援プログラム「Jースタートアップ企業」50社に選ばれた。

車止めを守る

車止め製造のサンポール（中区南吉島）は交通事故が起きやすかった呉市の昭和北小学校の通学路に高強度型の車止め「インパクトボラード」を設置しようとして、2月1日から目標額120万円のクラウドファンディング（CF）に挑戦。早くも13日には必要額を集め、支援者は120人を超えた。

操作ミスなどで車両が歩道に乗り上げて歩

行者を巻き込む事故の多発を受け、2020年に独自開発した同製品は時速40^キで走る車両の衝突衝撃を受け止められる。昨年6月、小学生が被害に遭った千葉県八街市の事故に心を痛めた同社の山根卓也さんがCFを企画し、呉市に申し出した。

「私にも小さな子どもがおり、他県で起きた事故も決して他人事ではなかった。地域の方だけではなく、趣旨に賛同した県外からの支援者もあり、反響の大きさに驚いた」

引き続き寄付を募り、同市内の別の場所への設置を計画。今回のCF活用をモデルケースに、全国で住民主導によるプロジェクトを支援する方針だ。

学生が推す

広島経済大学（安佐南区）と、のほり製造のポップジャパン（同）

は、学生が推す地元の景観や文化がテーマの布製ブックカバー「ヒロシマを読む」を共同制作した。

同大が力を入れる産学連携の一環で、メディアビジネス学部24年の計34人が参加。同社は商品企画やマーケティングなどで支援した。お好み焼き、錦鯉、神楽面などの写真をあしらった6種計120個を制作。学生は小西養鯉場（西区）、神楽門前湯治村（安芸高田市）などに何度も足を運び、数百枚を撮影したという。1個1500円（税別）。3月末まで廣文館新幹線店（南区）で扱う。同学部の宮地英和准教授は、「多くの課題を乗り越えて自らの力で商品を世に送り出した経験は学生にとって何物にも代えがたい。若者の柔軟な発想や感性に触れて、企業にもプラスになったのでは。次年度

も同社との取り組みを続ける予定です」

バウムクーヘン絵本

広島市文化財団似島公民館（南区）は3月6日午前11時から、同公民館が企画し完成した絵本「バウムクーヘンとあつくんの旅」の読み聞かせライブを行う。バウムクーヘンは1919年3月、似島の捕虜収容所にいたドイツ人菓子職人カール・ユーハイムが焼き、県物産陳列館（現原爆ドーム）で販売されたのが国内の起源とされる。似島小学校時代に公民館の新聞づくりを担当した同級生の20歳代女性4人が絵とストーリーを制作。A4判変型48^{ページ}で750部刷り、市内の図書館や公民館、小学校に配った。ライブは読み聞かせボランティア・クローバーが1時間で2回程度上演。ユーチューブで自宅などから無料で視聴

できる。同公民館では、「絵本は非売品で内容を広めるために読み聞かせを企画。現代の子どもがタイムスリップするストーリーで、似島の歴史と魅力を伝えたい」

グルメから推理

⑨ジュネスなどで行く実行委員会は2月21日、飲食店名をクイズにしたイベント「ひろしま美食探偵」を始めた。

料理などの画像とヒントを頼りに、市内の飲食51店舗を探し出す。クイズの解答は店舗写真をSNSに投稿する形式で行うため、情報が拡散して店舗PRにつながる。コロナ禍でシフトの減った学生アルバイトに企画や運営などを任せ、収入確保を支援。各店舗の正解者が抽選でアマゾンギフト券を贈る。原田琢千代代表は、「学生と一緒にテレビ